

SINAPIS



社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

月刊シナピスニュースレター

Vol.
98

2024. 7

年間テーマ ～あきらめない 平和への道を ともに～



5月に開催した、「社会の福音化をめざすキリスト者のつどい 2024」で講演する本田哲郎神父と、参加された方々の分かち合いの一場面

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、
愛し合うように願って平和の種をまき、
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

カトリック大阪高松大司教区
社会活動センター・シナピス

TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@osaka.catholic.jp
ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>



主の平和への真の道



船員司牧担当

デ・グスマン エリック バウチスタ神父

ミサで平和の挨拶を交わすとき、私たちはどんな平和を願っているのでしょうか。それは主の平和です。神様から来る平和であり、主イエスが私たちに与えてくださる平和なのです。

主が弟子たちに、ご自分が訪れようとした場所に弟子たちを二人ずつ派遣されたとき、訪問先に届くようにと言われたのと同じ平安です。

また、ゆるしの秘跡において神様が私たちの罪を赦してくださるとき、私たちに与えてくださるのはその同じ平安です。

真の平和は、戦争や憎しみがなく、相互理解と愛が支配する時にあるとは限りません。

- ・ 私たちが、目の前の問題を否定するのではなく、勇気をもって向き合い、解決するとき。
- ・ 私たちの指導者たちが、問題の原因となったかもしれない自らの欠点を謙虚に認め、状況に応じて毅然とした態度で臨むために、自らの判断の誤りや責任感の欠如を受け入れるとき。
- ・ 私たちが、罪を犯した人々に対して愛をもって指摘するとき、それは彼らを辱めるためではなく、むしろ彼らを正し、真の回心へと導き、彼らが諍い^{いさか}を起こした社会と和解させる方法を見つけるとき。
- ・ 私たちが、忠告され、正される側にあるとき、目上の人を信頼するとき。
- ・ 被害者と加害者の両当事者との話し合いに耳と心を開き、両者の言葉を聞くのに十分な慎重さを持ち、片方だけに調整を強要したり、不当な扱いを受けることに「慣れなさい」という指示を出さないとき。
- ・ 私たちが、周りに苦しんでいる人々がいることを認識し、彼らの声に丁寧に耳を傾け、彼らの気持ちを認め、手を差し伸べて彼らの痛みを和らげるとき。
- ・ 私たちが社会を真理と正義へと導くとき、現実の状況を否定し、隠そうとする傾向に流されることなく、すべてがうまくいっており、それを「平和」と呼ぶ偽りの見せかけを助長することに協力しないとき。

平和の元后である聖母マリアが、エリザベトを訪れたときのように、私たちに平和をもたらしてくださいように。また、私たちのために執り成しをしてくださり、真の平和の君であるひとり子、私たちの主イエス・キリストへの道を示してくださいように。

年間テーマ

～ あきらめない！ 平和への道を ともに～

身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。剣を取る者は皆、剣で滅びる」(マタイ 26:52)と言われたイエスの生き方に倣い、暴力に打ち勝つ強い信念をもち、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。このニュースが皆さまといっしょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

お詫びと訂正（前号の「歴史を生きるとは」の年表について）

本ニュース6月号に山田圭吾さんの「歴史を生きるとは」という文章を掲載しましたが、年表に誤った記述が複数ありました。執筆者の山田さんや読者の皆様に、たいへんご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。今回、改めて修正版を掲載させていただきます。

（編集スタッフ：ビスカルド篤子、嶋田至）

西暦	和暦	月	日	沖縄（琉球）関連事項
1944	昭和 19	8	22	学童疎開船対馬丸撃沈
		10	10	那覇空襲
1945	昭和 20	3	26	ニミッツ布告（米軍による沖縄占領統治宣言）
		3	26	米軍が慶良間列島に上陸/軍事占領開始 3月28日集団自決
		4	1	米軍が沖縄本島に上陸 その後、日本軍による住民虐殺多発
		6	23	牛島中将自決/組織的戦闘終結 沖縄慰霊の日
		8	15	玉音放送 敗戦 終戦記念日
		9	7	降伏文書調印式（現・嘉手納基地内）
1946	昭和 21	1	29	南西諸島の行政を分離 琉球（沖縄・奄美諸島）が日本から切り離される
		12	27	米軍が「人は左、車は右」通行を指示
1947	昭和 22	5	3	日本国憲法施行/琉球には適用されず
		9	20	天皇メッセージ（昭和天皇が25～50年以上の琉球占領を米国に提案）
1948	昭和 23	2	25	第一次日本留学生アメリカへ出発
1952	昭和 27	4	1	琉球政府発足
		4	28	サンフランシスコ条約（米軍の琉球支配合法化）発効 日本の独立
1953	昭和 28	12	25	奄美諸島日本復帰
1954	昭和 29	1	7	米大統領、沖縄基地の無期限保有を宣言
1958	昭和 33	8	28	首里高校、甲子園へ沖縄から初出場（検疫で甲子園の土を廃棄処分）
1959	昭和 34	6	30	授業中の宮森小学校に米軍戦闘機墜落（死者11名、負傷者151名）
1960	昭和 35	4	28	沖縄県祖国復帰協議会結成
1965	昭和 40	1	13	佐藤・ニクソン共同声明 日本政府、米軍基地の重要性を認める
		2	7	沖縄からベトナムへ出撃・空爆 米軍戦略爆撃機B52 飛来
		8	19	佐藤総理沖縄訪問「沖縄の祖国復帰が実現しない限り戦後は終わらない」
1968	昭和 43	6	26	小笠原諸島日本復帰
1969	昭和 44	11	22	佐藤・ニクソン共同声明 沖縄の施政権返還決まる
1970	昭和 45	11	15	戦後初の国政参加選挙
		12	20	ゴザ暴動 沖縄民衆の怒り爆発
1971	昭和 46	8		ドルショック/1ドル=360円→305円（通貨価値低下→物価値上げ）
		11	17	沖縄返還協定を強行採決/米軍基地と核問題をあいまいにしたまま
1972	昭和 47	5	15	沖縄の施政権返還（日本復帰）琉球政府→沖縄県/日本国憲法適用
1975	昭和 50	7	20	沖縄海洋博開催（バチカン館設置）
1978	昭和 53	7	30	交通方法変更 本土並みに（車は左、人は右へ）
		10	17	「沖縄そばの日」 公正取引委員会より「そば」の名称認可
1987	昭和 62	6	21	嘉手納基地包囲/人間の鎖（24,000人・包囲約17km）
		6	23	第一回「カトリック平和巡礼」（沖縄カトリック正義と平和委員会主催）
		9	28	沖縄国体/日の丸焼き捨て事件
1990	平成 2	9	22	カトリック正義と平和協議会全国会議・沖縄大会
1994	平成 6	4	4	米軍戦闘機墜落事故発生 嘉手納基地近く
1995	平成 7	9	4	米兵少女暴行事件
		6	23	平和の礎完成 24万人余刻銘（2023年現在）

「社会の福音化をめざすキリスト者のつどい 2024」報告
テーマ「苦しむ人々の声に耳を傾け応えていこう」

5月25日（土）13:00～16:30 会場：大阪高松大司教区本部1階ホール

参加者147名（対面67名 オンライン80名）

旧大阪教区では、1995年に設立した新生計画「交わり証しする教会」の精神に基づき、社会福音化の活動を進め、1年間の活動を振り返り、分かち合いを行ない学ぶ集いを毎年行ってきました。

今年は特に新教区の設立に伴い、旧高松教区の皆さまとともに新たな一歩を踏み出せるよう社会福音化のための活動に携わっておられる方ならどなたでも、対面かオンラインかを選びご参加いただけるようにしました。コロナが5類に移行して以来「教会の社会活動」関連の集会では147名という最大規模の集いとなりました。それだけ今の社会の動きと信仰のあり方を考える方が多くおられることに、実行委員一同とても励まされました。

しかし、当日は会場マイクのハウリングが解消されなかったり、共有画面がうまく投影できなかったり、開始直後から主催者側の不手際が続き、大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

また、オンラインでのアクセスがうまくできず、参加を断念せざるを得なかった方もおられたことは、本当に申し訳なく、今後は今回の失敗を教訓に今の時代にふさわしい活動ができるよう努力を重ねて参ります。新たに生まれた「大阪高松大司教区」として、社会活動ネットワークを広げていくことができますよう、これからもともに歩んでいただけたら幸いです。

シナピスセンター長：松浦謙

シナピス事務局：ビスカルド篤子

1. はじめの祈りと挨拶：松浦謙神父

時には悩んだり、苦しむこともあるかもしれないが、正しい情報と知識により、率直な話し合いを通して協力し、福音化に努めてほしい。今日のつどいを通じて今よりも元気になって帰ってほしい。

2. シナピスの活動紹介：ビスカルド篤子さん

シナピスは、「カリタス大阪、正義と平和、平和の手、難民問題などを担当する国際協力委員会」という社会に向けた従来の4つの活動の一つにする目的で、2002年に生まれた。すべての小教区（約80）に、社会に向けた窓口として社会活動委員会を設置。あえて、「福祉」と「正義と平和（社会問題）」を分けず、一つの委員会としている。旧高松教区には「人権を考える」という社会に向けた活動部門がある。「社会活動」とは「いのちを大切にすること」。人間の苦しみや痛みのある現実に対して、その原因にも結果にも、私たちが自らの問題として関わる必要がある。そのために小教区において3つの主な役割がある。

知る：どんな問題があるかを知り、伝える。

学ぶ：問題は何によってもたらされるのかを学ぶ。

行動：実現可能なことから行動する。

小教区で自由な話し合いができることが大切だと思う。

その実現のために学習会を開催する時には、シナピスに補助金の申請ができる（上限3万円）。

3. チェックイン：対面は1テーブル（4人）ごと、オンラインは10人ごとで、分かち合い。

名前と所属、参加の意図（社会の福音化のどのようなところに関心があるか）の分かち合い。

4. 酒井司教（社会福音化部門長）のビデオメッセージ：機器の不調により当日の配信は中止。

参加申し込み者には、6月6日にメール配信させていただきました。

5. 基調講演：本田哲郎神父（フランシスコ会 釜ヶ崎「ふるさとの家」在住）



今日のテーマは、「苦しむ人って？」、「耳を傾けるとは？」
「どのように応えていくのか？」

私は台湾で生まれ、小学校まで奄美大島にいた。その後、フランシスコ会では6年ごとに異動があり転々としたが、釜ヶ崎に来て大阪教区のもとで働くようになり 40 年近くになった、西成区萩之茶屋は最高の異動先で嬉しい。教会で学ぶよりも、黙想会に出るより、素晴らしい巡礼をするより、おじさんたちと談笑し学ぶことが、イエス様と一緒に

になるような気がする。教会の中では互いに飾る時があるが、釜ヶ崎はごまかしやウソは嫌いで、良い恰好は通用しない。「道、真理、命」（ヨハネ 14・6）の、「真理」というのは、ごまかしはないということ。

カトリック教会で、「博士号」をとられ、シナピスの前身となる「平和の手」という運動を起こされた太田道子さん（旧約聖書の専門家）が亡くなられた。（編集：2024 年 1 月 2 日 91 歳でご帰天）。彼女は、ガザ、パレスチナに対するイスラエルの攻撃について苦しんでいた。



第二バチカン公会議（1962～65）のメインメッセージは「貧しい人を優先する」ということ。キリストの教えは、貧しい人々を優先的に選ぶ、ということで、今大事にすべきことは、キリストのメッセージ。司教たちは「あのメッセージを忘れるなよ」と言ってほしい。イエスさんが大事にしていることを、普段の典礼の中で表現してほしい。

太田道子さんは、「貧しい人、抑圧された人」に優先的に関わろうとしていなかった教会を残念がっていただろう。

第二バチカン公会議の「貧しい人々を優先する」とはどういうことでしょうか？

「物を持っていく、何か譲ってあげよう」というのは上から目線です。これは間違い、もらわなくていいよ！「貧しい人々を優先する」とは、彼らに物やお金を分けるのではない。そう思い込んでいるから、貧しい人を紹介すると嫌な顔をする。

彼らの側に立つということは、同じになることではない。西成に行ったり来たりすることではない。あなたが野宿して何になる？ 自ら貧しさごっこをする人は抑圧されていない。中には、好きで野宿している人もいる。野宿しなくてもいいようにするのがあなたたちの役目でしょ！

四旬節の時に、貧しさを体験するために断食する人がいる。一食抜いただけで貧しさを体験する。イエスさんは、貧しいことは嫌いです。

労働者を連れてぶどう畑に行った。夕方になっても、まだ仕事をしないでたたずんでいる人がいた。

「誰も雇ってくれなかったのです」「誰も畑に連れて行ってくれなかった」と。

その時間からでも働くと、1 日分の仕事のお金を払った。これはイエスの体験からではないか。

イエスも働きたかった。

ヨゼフさんは大工ではありません。ギリシャ語ではラクトン（石を砕く人）で石切・石工。

もしも大工なら、財力があり小さな村で有名人だろう。しかし、ヨゼフさんは、大工が使う石を刻む人、石エブロックを造る人です。

「彼らは、剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。

国は国に向かって剣を上げず もはや戦うことを学ばない」(イザヤ2・4)

やられたらやられっぱなしでニコニコしていなさいということでしょうか？

パレスチナで武器のない子ども達が、石を拾って兵隊たちに石を投げるのはわかる。

釜ヶ崎の暴動で、機動隊と労働者がぶつかった時、労働者は、大きめの石を拾っては投じた。

イエスが民衆に襲われて連れていかれる時、ペトロが腰のナイフを出して民衆の耳を切り落とした。

イエスは「もうそれで良い」と言った。「そこまでで止めておけ」と。イエスも抵抗を考えておられた。

無防備で疲れ果てた最後のことは、「私の神よ、なぜ私を見捨てたのか」と嘆いた。

弟子は、最後に立ち上がってこの人が新たな王国を立ち上げてくれると思ったのに、負けを宣言した。

にもかかわらず、イエスは小さな抵抗「そこまでにしておけ」と言った。

「負けた方が良い」という説明はちょっと違う。パレスチナで石を投げ直す子ども達の気持ちをわかっていない。「負けるが勝ち」ではない。

「憲法9条」のことを論じる時、「あれはアメリカ人が作ったんだろ！」というが「聖書に基づいて書いた」となかなか言わない・・・。



「洗礼」について

洗礼を必要不可欠なものと思っていませんか？水をかけてもらったから特別な人になったと錯覚する人がいる。洗礼を受けていることをどこかで上から目線になっていませんか？

洗礼を受けていなくても、すごいクリスチャンがいることに気づいてほしい。

バプテスマ（洗礼）は、身を沈めることで、身を清める儀式ではありません。

それぞれの生活の中での「洗礼」というのは、身を沈めて立ち上がるということ。「自分に死ぬ、自分のわがままを殺す」ということ。洗礼は「埋葬」、「自分が死ぬこと」です。イエスという方は、「聖霊の火に身を沈めて洗礼を受けます」。そういう意味で、西成に来ている人はみんな洗礼を受けている。

「洗礼」は、「洗う」という言葉を使ったために、「清められた」と間違えられる。

イエスがヨハネから洗礼を受けたヨルダン川はどのような場所か？

ヨルダン川の海拔はマイナス 200m～300m の低い場所。ガリラヤ湖は海拔より下で、死海は海拔マイナス 400m の低い場所にある。

洗礼というのは、「低くする」ということ。ヨルダン川は低い場所にあるので、きれいな水ではなく汚いものがたまっている。洗礼を受けるというのは、「泥水をかぶる覚悟をする」ということ。

最後に、教会の司牧でお金を取るのをやめませんか？「見返り」とは何でしょうか？パウロのことはから、「福音による特権を使わずに済んでいること」です。

教会で使う「聖なる者たち」という言葉は、司祭や助祭とは違い、貧しく小さくされている人のこと。痛みに関心を動かすというのは、計算があって動くのではなく、突き動かされて動くことです。

「グループ対話とフリートーキング」、「祈りの集い」の後、感謝の気持ちでこの集いを終えました。

このつどいに参加された方からのメッセージをご紹介します。

【分かち合いについて】

- いろいろな地域の方・他教会の方と親しく交われ、教え合ったことは貴重な体験でした。
- 同席の方々との話し合いが楽しかった。この様な分かち合いを心から望んでいました。
- 旧高松教区の方はどれくらい参加されていたのでしょうか？大阪と高松の人たちの交流がなかったのが残念です。
- コロナ禍を経験して以降、このような分かち合いを心から望んでいました。
- 信徒の交わりの一つとして、心温まる時となりました。



各テーブルでの分かち合い

【本田神父の講演を聴いて】



- 苦しんでいる人々の”側に立つ“ということ、とても心に残りました。同じ立場には立てないけれど、その人に真剣に向き合うことを心していきます。
- 「あなたのことを大切に思っているよ」と相手に伝え続けられる人でありたいと思いました。
- 今まで教会で聞いてきたお話と違い、納得のいくお話に感動し、嬉しかったです。
- ペトロが耳をそぎ落とす場面で「そこまでにしておけ」は、ガザの子どもがイスラエル軍に投石することと同じ意味なのか？ 私の見解では、完全無抵抗の理解でしたが。
- 独りよがりの信仰にならないよう気を付けます。貧しい人の側に立つことを心に刻みます。
- まず、現場に本気で入っていくことかと受け取りました。今日のことは小教区にも伝えたいです。
- 本田神父様の、ことば一つ一つに生き方の深さを感じました。
- 対話を心がけていきたいと思います。愛を届けられますように。
- “弱い人たちの側に立つ” 大きなことはできませんが、自分のことから始めたいと思います。
- ヨゼフ様は「大工」ではなく、「石工」だと言われてびっくり！日曜学校で伝えるのか考えました。
- 本田神父様のお話は、いつも心に刺さりますが、自分が何かを始められますように。
- イエス様がキリストであることを第三者にどのように示すかを考える必要があるのではないのでしょうか。一番根本的な議論も必要であると思います。
- 人間一人一人、考え方もとらえ方も違うなと思う。貴重な講演会と集いに参加できて良かったです。
- 聖書の読み方や解釈の仕方もいろいろあるのだと実感しました。ありがとうございました。
- 自分の考えを少し変えることができました。
- 自分を振り返る大切なことをたくさん教えていただきました。これからの活動で、間違った方向へ行かないように肝に銘じます。
- 「クリスチャン」の意味と責任を感じました。
- 神父様のメッセージに、また新しくさせていただきました。また来年お会いしましょう。
- 聖書のお話をお聞きして、より小さい人々に神が向けられる目が分かったような気がしました。

〈「洗礼」についてのお話について〉

- 本田神父様のお話、すべて良かったけど、特に「洗礼」のとらえ方に考えさせられました。
- 洗礼の恵みをいただきながら、本質的な教えを失っていました。今日あらためて目覚めました。
- 洗礼とは、最も低い所にある泥水に身を沈めることだというお言葉に衝撃を受けました。
- 「洗礼」の本当の意味が良くわかりました。現在、教会で行われている洗礼式のような、水を“たらず”だけでは、”清め”“としか思われられないでしょう。
- 「泥水からの洗礼」・・・新たな公教要理でした。こんなに感動したことは久しくありません。
- 洗礼を受けるとは、泥に身を沈めること。それは関わること。心に愛を抱いて、と心得ました。

〈本田神父へのメッセージ〉



- とても奥深いお話で、自分の信仰を見直す言葉や、言葉では表しつくせない温かい思いをいただきました。
- 期待をはるかに超える思いをたくさんいただきました。ありがとうございました。
- 本田神父様に初めてお会いできて感激し、感謝でいっぱいです。ありがとうございました。これからもお身体にご留意され、ご活躍ください。お元気でいてください。
- 小さくされた者の福音を読み直したいと思いました。

〈スタッフへのメッセージ〉

- 今日のために準備してくださった皆さま、心から感謝を申し上げます。
大変でしょうが、こういう機会をまた作っていただきたいです。
- 機材の関係で、少しトラブルがあったのは残念。ハイブリッドの失敗は、次回に活かしましょう。
- 酒井司教様のメッセージは予め受け取っていたのなら、前もって要約筆記等文章化していただいていたら嬉しいです。
- 期待をはるかに超える大きなお恵みをいただきました。神様に、そして皆さまに感謝です。
皆さまの犠牲に対して、心から感謝を申し上げます。

【その他】

- とても有益な時間を過ごさせていただきました。いつも思うことですが、カトリックの集まりは内向きの傾向があります。友人を誘ったのですが、その友人も同じことを言っていました。
解決策としては、action first 兎に角やったこと、できたこと、できなかったことを共に review する場所と仲間が欲しいです。ですから今、私にできることは教会の外に仲間を見つけ、彼らと共に活動しています。カトリックは離れられませんが、聖霊の働きのもとに頑張ります。
- 教皇フランシスコが言われるように、教会は苦しむ人々と共に在って当然だと思います！
- とても楽しい一日でした。お世話になりました。
- 「毎日のミサ:」を読むと、教会の中で起こっている事件が今そっくり出ています。
- 祈りは聞き入れられます。イエスが救い主であることを伝えます。
- 何ができるのか、改めて考えます。

ご参加・ご協力をいただいた皆様、ありがとうございました。



曇り後 晴天！

～情報保障（要約筆記）でシナピスの集いに参加して～

障がい者委員 よし かわ やす お 吉川 康夫

先の5月25日（土）「シナピスの集い」に要約筆記スタッフとして参加しました。1人はリモートで、私は会場で行いました。会が始まって、すぐハウリング（スピーカー音とマイクが共鳴して大きな音になりつづける鳴音）がおきました。

会場に2台のホストパソコンがあり、その2台のうちの1台のマイクを切ることによって解決しました。

しかし、その後に「別室でしてもらえないか。」と、スタッフに話しているのが聞こえました。スタッフが適切に対応してくださり、そのまま同じ部屋でつづけました。本田神父さんのお話も素晴らしく、分かち合いと祈りの集いも終わり、なんとか要約筆記を終えることができました。

しかし、家に帰ってからモヤモヤが残りました。言うのが良いか、黙っておくのが良いのか悩みました。妻にも相談しました。“押さえても、押さえても、わき上がる思いは、神の声”と感じ、シナピスに伝えることとしました。

思い切って伝え、すぐに「それは、私です」と名乗ってくださいました。

手話や要約筆記で、教会や集いに行くと、「目障り」、「もっと、司祭から離れて」と言われることがあります。聞こえない人は、講師の口を読み取りしながら同時に手話を見る必要があります。また、直接的ではありませんが、「仕事を増やさないでほしい」、「邪魔くさいなあ」と言われている空気を感じて、辛い思いをすることがよくあります。それ故、ハウリングを防ぐために言われた言葉を、私が否定的に感じてしまったのでしょう。双方向のやり取りを重ね私の気持ちにも共感してくださり、スッキリとしました。

ご本人からは「お話、ようやく理解しました。どうぞ、遠慮なくお書きください」と。

シナピス編集部からも、「あからさまな『排除の言葉』だけでなく、なんとなく発した言葉が誰かをつらくすることも多々あるのだらうと思います。モヤモヤした気持ちを、一人ひとりが口にできることが大切かと思います」といただきました。

私は、モヤモヤを言えます。しかし、言えない人も多いのです。

当事者が声を上げるのが一番良いのですが、合理的配慮を求めた障害を持つ人がクレーマーのように扱われることも多いと聞きます。今、障がい者委員会では、“合理的配慮”への双方向の代弁者となれるような窓口をつくりたいと準備中です。

※障がい者委員会へのアドレス：dis@osaka.catholic.jp



原発を必要としない社会の実現を目指して

カトリック六甲教会信徒 こいすみ はじめ 古泉 肇



ドキュメンタリー映画「わすれない
ふくしま」を教皇に献上

2017年10月11日。雲一つない空の下、サンピエトロ広場で行われた教皇の一般謁見の席上、日本の司教団から、「いまずぐ原発の廃止を～福島第一原発事故という悲劇的な災害を前にして～」という公式文書が高見大司教からフランシスコ教皇に手渡されました。

その文書に添えて、私がプロデュースしたドキュメンタリー映画「わすれない ふくしま」(四ノ宮浩監督)も献上されました。

この映画は原発事故による放射能汚染で避難した家族や、村に残って家畜の世話を続ける人々の生活を描いています。東日本大震災直後から被災地に入って、映画の製作を始めた人は少なからずいたようですが、原発事故による被害を映画で扱おうとすると、スポンサー企業が撤退し、映画の製作を断念せざるを得なかったとのことでした。

私は以前から「原発は核の平和利用である」という原発賛成派の考えに違和感を持っていましたので、この原発事故を知り、何か自分に出来る事はないかと考えていたところ、四ノ宮監督から映画製作のプロデュースを依頼されました。

さらに、福岡の玄海原発に反対している信徒の方から「バチカン当局が核の平和利用として、明確に原発反対の姿勢を表明しないため、反対運動が教会になかなか理解されない」という話を聞き、教皇にこの映画を献上したいと思い至りました。

その後、2019年11月、日本から帰国の途につかれたフランシスコ教皇は、機内での記者会見において、原発に対して懸念を表明されました。このことはメディアで大きく取り上げられませんでした。明らかにバチカンの原発に対する考え方が変わったように感じました。

それから2年余り後、世界は原発が単なる「発電所」ではなく「核兵器」としても利用される危険を知ることになります。ロシアによるウクライナ侵攻後すぐ、ロシア軍によってザポリージャ原発が占領されました。原発が戦略上重要な標的となったのです。その結果、原発事故のリスクが高まるとともに、もし原発が破壊されたならば、核兵器が使用されたのと同じく地球規模の破滅的結果をもたらされるのです。もはや「核の平和的利用」はできないということは明らかです。

私は第二バチカン公会議文書『現代世界憲章』において説かれている一信者としての使命に常に目覚め、創造主の望まれる社会の実現に向けて、これからも皆様と共に祈りつつ歩んでまいりたいと思います。



戦没画学生慰霊美術館「無言館」

「第 26 回 無言忌」に寄せて 一遺族 D・K

「無言館」（長野県上田市）は、主に東京美術学校の学窓を後に、絵筆を銃に持ち替え、戦地に向かった若き画学生の慰霊美術館です。「無言館」設立のきっかけをつくられた野見山暁治画伯は、東京美術学校を卒業してすぐに出征し、戦地で重病になり日本に帰国し、後に画家として活躍します。

しかし、「自分より才能のある仲間を戦場に置いて帰って来た。仲間はみんな傷つき、飢えに苦しみながら戦死した。この“罪”を犯した自分は戦後ずっと耻ずかしかった。そんな自分を、戦死した仲間の遺族に思う存分処罰してもらいたい。もし許されるなら、彼らの絵を見てもらえる場所ができたら…」と、自分が生きていることを戦後 50 年ずっと苦しんできたことを窪島誠一郎さん（現「無言館」館主）に告白したのでした。

野見山さんの正直な告白に、窪島さんは「全国のご遺族を一軒一軒訪ね、戦没画学生の遺作を救い出したい」という思いがこみ上げてきて、何か月もかけご遺族の住んでいる場所を探し出し、二人で“ご遺族を巡る旅”を始めたのです。

画学生のご両親は既にこの世になく、ご遺族の世代は変わっていましたが、遺骨も戻ってこない家族にとっては、ご自分の大切な親・兄弟・恋人・夫が遺した絵だけを彼らの生きた証し・心の支えとしながら、まだ「戦争」は続いていたのでした。

ご健在のご兄弟や親類の方たちの多くは、「国や政府からの援助なしに民間人がやろうとしている美術館なら、預けよう」と戦後ずっと家族を支えてきた大切な絵や遺品を預けてくださいました。

どの絵も戦後 50 年以上もご遺族によってひっそりと保管されていたので、傷みが激しく、画学生のもう一つの命である「作品」の命を救うために修復しました。

こうして、戦没画学生慰霊美術館「無言館」は、1997 年 5 月に遺作や遺品を展示し開館され、息を吹き返した作品は「無言館」で生き生きとした光を放っています。

「無言館」には、絵を描くことが好きで好きでたまらなかった若者が戦争に行く前に一生懸命描いた絵や、戦地でそっと描いたスケッチ、祖国の肉親や恋人に宛てた絵葉書や手紙などが展示されています。戦争という不条理な運命のもとで描かれた彼らの絵は、戦争に対する抗議・遺恨などのものではなく、「今を生きることのかけがえのなさ」と「絵を描く環境にしてくれた人々への感謝」、「祖父母、両親、兄弟姉妹、妻、恋人への愛情」が溢れ、「描く喜び、人を愛する喜び、生きて帰って描く希望」が伝わって来ます。

「無言館」に画学生の遺作・遺品を預けている遺族に、毎年 6 月初めに行われる「無言忌」への案内が届きます。「無言忌」は今年で通算 26 回目になります。全国から集まった遺族は、肉親の遺した作品を見ながら、「戦争さえなければ、ずっと好きな絵を描いていただろうに。学校に入っただけで戦争に駆り出され…」と口にしながらか交流してきました。しかし、ご遺族の世代も変わり、また「無言館」設立のきっかけとなった野見山画伯は、昨年 6 月に 102 歳で亡くなりました。館主の窪島さんも 82 歳。個人的思いで何とか存在してきた「無言館」ですが、この 6 月 14 日に、内田也哉子さん（母は樹木希林さん）が共同館主に就任したことが発表されました。

2 年間にわたり窪島さんと交流を深め、「無言館」のバトンを未来に繋ぐ走者としての役割を受け継いだ内田さんは、「このような稀有な美術館の存在を多くの方々へ伝えていけるように努めたい」と述べられました。このような時代があったことを若い世代が知り、青春を奪われるような時代が二度と来ないことを改めて願った「無言忌」でした。



2024 年 5 月、シナピスこども基金は
下記の団体を支援しました。

グループ名	特定非営利活動法人 イーグル・アフガン復興協会
交付金額	100 万円
グループの目的及び活動状況	
・ 目的（定款より） アフガニスタンに対して、衣類や文房具、衣料品等の不足している物資の支援、アフガニスタンの復興を促すための職業訓練校の建設等に関する事業を行い、アフガニスタンの人々の生活安定を図ることで、民族同士が共存できる平和な社会の実現に寄与することを目的とする。 ・ 活動内容 （１） 国際協力の活動 （２） 人権の擁護また又は平和の推進を図る活動 （３） 社会教育の推進を図る活動 （４） 子供の健全育成を図る活動 以上、内閣府 NPO ホームページに登録・掲載済み https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/detail/013002835 <最近の主な活動> ・ アフガニスタン人難民家族への物心両面での支援 ・ アフガニスタン人女性への日本語習得支援および託児活動 ・ アフガニスタン児童への学習支援および生活支援	
<活動の内容> ・ 成人女性向け活動（日本語取得支援、育児支援、生活支援） ・ 子供向け活動（保育、小中学校生への学習支援（宿題や進学）） ・ 対外活動（子供が通う学校での問題解決） ・ 事業予算 （主に子供向け活動のみ） ☆ボランティアへの交通費および活動費 ☆遊具、文具（ノートや紙類）、その他備品購入費 ☆菓子、飲み水、保育に必要な医薬品、雑費 ☆保育・学習支援運用費、保険その他 上記を総合し、1 回平均 2.5 万円×40 回＝年間 100 万円	

イーグル・アフガン復興支援協会からお礼状がとどきました

親愛なるシナピス様

私のママは「イーグルアフガン明德カレッジ」という日本語学校に通っています。毎週土曜日は、私と弟も一緒です。ママはアフガニスタンではパティシエでしたが、戦争がひどく家族みんなが日本にきました。日本は綺麗ですが、言葉が出来ないので、すぐにお菓子のお店を開くことは難しく、今ママは食品工場で働いています。

私は小学校の4年生で、弟は1年生です。ある日ママが突然「土曜日も学校に行くよ」と言って私たちを連れ出したので驚きました。ママは、「日本語がもっとうまくなって、仕事がもっと出来たり、私たちの勉強や学校のことをもっと知りたいから」と言いました。

着いたのはとても立派な学校で、「千葉明德短大」と言います。ママはそこの2階を間借りして始まった日本語学校へ。仲間は50人もいるみたい。日本であんなに多くのアフガンの女の子を見たのは初めてでした。私たちは1階のリズム室へ。子どもが25人いたかな。すぐに仲良しになりました。ここと、隣の幼稚園の庭で遊んで、ママの授業の終わりを待つのです。

リズム室



ブランコ



教える小学生



お庭のブランコなんかはタダですが、リズム室のおもちゃや絵本などはカレッジの人たちが買ってくださったものです。時々、「ここは遊園地よりも楽しいね」とみんなで笑っています。

私たちを世話する大人は毎週5人はいます。最近は日本人の小学生や、短大の附属高校のお姉さんまで来てくれます。いろんな人と出会えて、なんだか嬉しくなります。

もっと嬉しいのは、5月から私たちの勉強が始まったことです。さっき話した日本人の小学生もスタッフに混じって教えてくれます。ドリルや辞書も揃えてあってやる気が出ます。

宿題の「音読」を聞いてくれる人がやっと現れたんです。ママには最初「勉強なんか嫌だ」と言ってしまいましたが、今では来られて良かったと思います。

それと、ちょっと恥ずかしいのですが、私は以前、虐められていました。「くさい」とか「帰れ」とかいうやつです。ママがカレッジのスタッフに相談すると、すぐに小学校まで来てくれてみんなで話し合いました。小学校の先生も本気で取り組み、今ではいじめっ子たちと普通の友達になれました。そんなカレッジは私たちにとって大切な場所です。

そんなカレッジを支援してくださる「シナピス」のことを忘れずに、勉強に遊びにがんばりたいと思います。

心を込めて アミリ



ご案内

「平和を願う」パイプオルガンの響き

エルサレム・聖地特別管区 フランシスコ会の首席オルガニストによる演奏会

シナピス運営委員 夙川教会 西口 信幸

パレスチナとイスラエルの「平和を願う」コンサートが、関西の教会で催されますので、紹介します。詳細は、この「シナピスニュース」に同封しているチラシをご覧ください。

オルガン奏者のヤクーブさんは、渦中にあるイスラエルのオルガニストであり、「聖地の子どもを支える会」の現地スタッフでもあります。演奏の後、現地の状況、ガザの人々の苦しみについて、生の声を聴かせていただくことになっています。

開催日 7月13日（土）日本聖公会 川口基督教会

7月14日（日）カトリック神戸中央教会

7月15日（月）カトリック河原町教会

主催 イスラエルとパレスチナの平和を願う会

後援 道の会 認定NPO 法人聖地の子どもを支える会

入場料 無料（会場での自由献金）

献金は ①ガザの緊急支援、②聖地の子どもの教育支援
③イスラエル・パレスチナ青少年の国際平和交流
に使用します。



《ヤクーブ・ガザウィさん》

イスラエル国籍（アラブ人）。1989年3月30日エルサレム生まれ。

2008年から「聖なる救い主教会」（エルサレム小教区）オルガニスト、2016年から現在までフランシスコ会聖地特別管区（テラ・サンクタ）のメイン・オルガニストとして「聖墳墓教会」（エルサレム）、「聖教会」（ベツレヘム）、「受胎告知教会」（ナザレ）などで活躍しています。

2017年以来東京、横浜、仙台、京都、奈良の教会で10数回のコンサートを開催、

今年5月には長崎の浦上天主堂、福岡や熊本の教会でも演奏しました。

「聖地のこどもを支える会」は、イスラエルとパレスチナの若者が共同生活の中で交流する「平和の架け橋」プロジェクトを通じて、互いへの理解と和解に向けた「共生への道」の礎する活動を30年近く、続けておられます。ガザへの侵攻が半年以上も続く中、「こんな時期に」という声の中、「こんな時期だからこそ」対立のある中で、痛みを持って会って語り合おうと2024プロジェクトを計画されています。

詳しくは「会」のホームページやニュース「オリーブの木」No.92に書かれています。興味のある方はぜひご覧ください。

<https://seichi-no-kodomo.org>

<https://seichi-no-kodomo.org/wp-content/uploads/2024/05/olive-92.pdf>





小冊子・リーフレットのご紹介

シナピス運営委員 嶋田至

シナピスの事務所には、さまざまな小冊子やリーフレットがあります。

戦争と平和、ジェンダーや性的マイノリティ、難民や海外からの移住者、ハラスメント、自死の防止、死刑制度、原子力発電、環境問題、憲法9条．．．など、さまざまなテーマについてカトリック中央協議会や正義と平和協議会、カリタスなどの諸団体が啓発や学習用に作成したものです。シナピスができる20年たつので、なかには十年以上前に作られたものもありますが、今も十分に活用できるものだと思います。

今回は、そのなかから『キリストと同じ夢を見る』『セクシュアル・ハラスメントに気づくことから』『平和のために働く人はしあわせ』の3冊をご紹介します。

『キリストと同じ夢を見る～これからの教会共同体～』（松浦悟郎、2020年）

2020年の冬に、松浦悟郎司教がカトリック新聞に連載した記事を集めたものです。「教会の考えと自分の考えが違う時」「政治に向かって発言する教会」「自分の現実を分かち合う」といったテーマで、私たちが社会問題について発言したり行動したりするときに起こりがちな誤解やためらいなどについて、簡潔に解説がなされています。

『セクシュアル・ハラスメントに気づくことから～あらゆる暴力にNO!という教会を目指して』

（カトリック中央協議会社会福音化推進部 子どもと女性の権利擁護のためのデスク、2006年）

2004年に実施したアンケートによって、教会共同体においてセクシュアル・ハラスメントがあることが明らかになりました。この小冊子は、一人ひとりがセクシュアル・ハラスメントの問題に気づき、自分自身の問題として受け止めていくためにつくられました。セクシュアル・ハラスメントの定義に始まり、被害を受けたときや被害の相談を受けたときの対応、防止策などについて、わかりやすく解説されています。

『平和のために働く人はしあわせ』（日本カトリック正義と平和協議会、2002年）

1987年におこなわれた相馬信夫司教の講演記録です。相馬司教は1970年に正義と平和協議会が発足して以来、20年間、会長として正義と平和の実現のために尽くされました。ずいぶん昔の記録なので紹介されている事例は古いものですが、信仰・祈りと社会問題に関わるものの関係性について、丁寧に解説されています。今だからこそ、あらためて学びなおしたいものだと思います。

今後、他の小冊子やリーフレットについてもご紹介をしていきます。
ご興味を持たれたらシナピスまでご連絡ください。

※残部が少ないものもありますので、ご希望にそえない場合があります。悪しからずご了承ください。



6月12日 グッモーニン！ 住吉教会の小島さん

住吉教会の小島勝人さんが自家用車にいっぱいの段ボール箱を積んで、支援物資を運んでくださいました。住吉教会では、難民や生活困窮者のための支援物資を忘れずに呼びかけてくださっています。3 か月毎に、集まった品目と個数を「聖書と典礼」に挟んで、信徒の皆さんに報告するそうです。

4～6月の品目は128、総個数は何と428個。現役最長老(?)の信徒の方が「このリストは凄い！」と褒めてくださったそうです。物資が集まると、小島さんが活動センターまで届けてくださいます。小島さんが来られるのはいつも早朝。手際よく荷下ろしをされるとお茶も飲まれず、風のように去って行かれます。

お忙しい小島さんですが、ご自身で作られた「お年寄りの乗降用踏み台」を見せてくださったたり、小島さんとの立ち話は朝にふさわしい明るさがあります。



この日は、矢野吉久神父さんの「キリスト教おさらい会」の記録をシナピスに一部くださいました。「秘跡・病者の塗油・葬式」「祈り」等の講話を小島さんが文字起こしし、冊子にまとめられたということでした。目下「教会」の講話に取り組midだとか。

これまでもシナピスには小島さんのように「〇〇神父さんの講話をまとめた」、「〇〇さんの講演をDVDに保存した」など、「この話をもっと多くの人に知ってもらいたい」と持ってきてくださる方がおられます。こうした記録の保存は、社会のなかを歩んできた教会の財産になりますね。

6月14日 移民政策の肝は、フェイクに対するファクトチェックをし、事実を知らせること

カトリック大阪高松大司教区も反対声明を出した「永住許可取り消し法案」が可決成立してしまいました。詳しい経緯と解説は、同封の外キ協が出した抗議声明をお読みください。

なぜ多くの人が「この法案を通してはダメだ」と反対したのか、鳥井一平さん（移住者と連帯する全国ネットワーク共同理事）の言葉には説得力がありました。

「永住許可取り消し法案を提出したこと自体がヘイトを煽る結果になった。事実、一部のメディアが“永住者の一割が税金等未納”とタイトルを出し、それが法務委員会でいきなり審議されてしまった。

移住政策の肝とは何か。それはフェイクに対するファクトチェックを政治がやって、できるだけ正しい事実を知らせること。ゼノフォビアはデマやヘイトから生まれる。その中には悪意のないものも含まれる。いい加減な数字、いい加減な言葉がヘイトを生み出す。はじめは法案に反対と言っていた人もデマとヘイトの広がりですら署名ができなくなっていった。

”永住許可取り消し法をつくるべきだ“の大きな声に政治家が忖度して法を通してしまうようでは、共生社会などつukれない。」

外キ協の抗議声明の最後にある永住者からの問いかけに、誰が自信を持って答えられるのだろうかと思いました。

《編集注》ファクトチェック：事実かどうかを確認すること

ゼノフォビア：外国人嫌悪、外国人恐怖症

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピス年間テーマ～「あきらめない 平和への道を とともに」～

シナピスの風

第169号 2024年7月1日発行

7月の祈り

主よ、
あなたは、神の国を求める人びとの
共同体の在り方を教えるために、
子どもを呼んで真ん中に立たせました。
教会は、弱い立場に置かれている人びとを
中心に置く共同体になってほしいことを
示してくださいました。
この教会こそ、世界に真の平和を実現する
秘跡を示すことができます。
いつまでも、立場、権威、富などへの執着
に悩まされているわたしたちの心を清め、
聞かせてください。
平和な世界を築くために貢献したいので
す。わたしたちの歩みを支えてください。
アーメン。



第42回平和旬間 8月6～15日

平和旬間2024-10 Days for Peace

いまこそ平和を Peace, now!

～苦しむ人びとの声に耳を傾け応えていこう！

Listen & respond to the sufferers～

* 病者・障がい者とともに歩むミサ のご案内 *

■日時：9月23日(月・祝) 14時～

■場所：カトリック大阪高松大司教区
カテドラル 聖マリア大聖堂

* ミサ後分かちあいを予定しています。

昨年度より実行委員会形式で

実施しています。

ご意見お待ちしております。

dis@osaka.catholic.jp

シナピスホーム

★毎週土曜日 13時ごろ～16時ごろ

7月の開催：6、13、27日

★月1回ランチ(要予約) 20日



活動へのご支援ご協力を
よろしくお願いいたします。

お庭の草抜きなど「力仕事」を
シナピスにご用命ください！

難民移住者と日本人スタッフとが
一緒に作業にお伺いします



震災のための祈り（テゼの祈り）

～東日本震災後160ヶ月目を迎えて～

■日時 7月11日(木) 17時～

■場所 西新教会（福岡教区）

* 震災のための祈りは毎月11日に行っています

...○○○...○○○...○○○...○○○...

* 8月の予定 *

■日時 8月11日(木) 17時～

■場所 大阪梅田教会（サクラファミリア）

活動へのご支援ご協力を
よろしくお願いいたします。



お庭の草抜きなど「力仕事」を
シナピスにご用命ください！

難民移住者と日本人スタッフとが
一緒に作業にお伺いします

お電話をお待ちしています！！

☎06-6941-4999



シナピス公式

さまざまなお知らせや情報を発信！

友達追加は 📱 QR コードから 📱



HP はこちらから

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

ニュースレター配布停止ご希望の方は
シナピスまでお知らせください。

あとがき

月に一度、広報会議を開いています。会議に集まるのは、シナピスのスタッフと、広報を手伝ってくれるボランティアの方々です。今後のシナピスニュースの内容や執筆者の選定、広報のあり方などについて話しています。

毎回感じるのですが、原稿を依頼した人たちは私たちの意図をよく汲んで、真摯に執筆してくださいます。数百字という限られたなか、皆と共有したいことや、今とくに伝えたいことなどを簡潔にまとめてくださいます。ふだん文章を書き慣れない人もおられると思うので、皆さん、かなりの時間と労力をかけておられるのかもしれません。

編集作業を終えた後、印刷と発送作業を支えてくれるのは、海外出身でシナピスのさまざまな業務を手伝ってくれる方々です。彼らの働きがあってこそ、シナピスニュースは皆さんのもとに届けられます。

ときには、賛否両論ある問題を取り上げて、炎上することもあります。編集ミスに気づかず、お詫びの記事を出すこともあります。なかなか成熟はしませんが、皆様の協力を得ながら、各地で多様な社会活動に取り組む人たちを繋ぎ、交流と協働を促す媒体でありたいと思っています。(I)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪高松教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆日本カトリック司教協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪高松大司教区事務局内



●公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m

●車でお越しの場合

阪神高速 1 3 号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします

☐郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

☐三井住友銀行 玉造支店 普通 9401958

カトリック大阪大司教区 シナピス

代表役員 前田万葉

☐オンラインはこちら ➡➡➡

